社会的に孤立しがちなひとり暮らし高齢者等へのコミュニティソーシャルワークによる支援のあり方に関する研究
－2 地域の FGI 調査を基に－

○　早稲田大学　　田中　英樹（００２６９７）
高橋　信幸（日本地域福祉研究所・００３８３３）、中野　いく子（日本地域福祉研究所・００１４１９）
キーワード：社会的孤立・孤立死・コミュニティソーシャルワーク

１．研 究 目 的

本研究は、平成 25 年度に実施した上記テーマの第一次調査（量的研究）を受けている。第一次調査の結果を基にし、さらに精度の高い考察を加えることと、とくに孤立死に代表されるような孤立しがちな高齢者等への孤立解消に向けたコミュニティソーシャルワークによる支援の効果を検証し、今後の課題を明らかにすることを目的とした。

２．研究の視点および方法

本研究では、フォーカスグループインタビュー（以下、FGI と表記）を採用した。本研究では、2 地域で、４つのグループを組織した。具体的には、一次調査の予備調査で実施した東京都豊島区及び埼玉県飯能市の地域包括支援センター管轄区域の内、CSW 実践者が配置されている地域（豊島区 A グループ・飯能市 D グループ）と配置されていないか一部兼務の地域（豊島区 B グループ・飯能市 C グループ）各 1 地域・計 4 地域を選定した。なお、１グループの人数はすべて 8 人で構成した。仮設と質問は以下の通りである。

（仮説）

①都市部と山間部では、社会的に孤立しがちな人々の課題も異なるのではないか。
②孤立死に関して､その原因や背景など､都市部と山間部では様相が異なるのではないか。
③CSW が配置されている地域では、未配置地域よりも対応が進んでいるのではないか。
④CSW 実践は、専門機関との連携や役割分担にはなお課題も見られるのではないか。

【インタビュー内容】1．孤立死をなぜ防げなかったか?2．ハイリスク層はどういう人か?3．孤立死をなくすにはどういう支援が必要か?　4．社会的孤立を防ぐにはどうしたらよいか?　5．CSW へ何を期待するか?（当該地域で）【分析の方法と手順】(1) 逐語記録・逐次観察記録作成　(2) 一次分析（4 グループ別の分析による重要アイテムの抽出）は、研究代表者　(3) 二次分析（テーマ別の分析による重要カテゴリーの抽出）及び(4) 複合分析（４つの FGI の比較分析）は研究グループの討論で実施した。

３．倫理的配慮

早稲田大学倫理審査委員会にて、研究計画名「社会的に孤立しがちなひとり暮らし高齢者等へのコミュニティソーシャルワークによる支援のあり方について」で 2013 年 6 月 14 日に承認を受けている。

４．研 究 結 果

①都市部と山間地

豊島区（都市部）と飯能市（山間地）の地域に共通する意見もあるが、地域に特徴的な意見も表明された。１．孤立死をなぜ防げなかったか?　豊島区では、総じて都市部の特徴と思われる発言を紹介する。「隣はどんな方がいるか、そういう付き合いがない」「町会の加入率が悪く（区平均 52.7%）、単身者世帯が圧倒的に多い」「ワンルームマンションばかり」。飯能市では、総じて山間部の特徴と思われる発言を次に紹介する。「（都会に出て）子どもが一緒に住んでいないから、孤立死になりやすい」「冬場、山間地は特に室内を暖め、十二単いっぱいに着るのですが、朝気がついたら低体温で亡くなっていた」。２．ハイリスク層はどういう人か?　豊島区は「孤立に慣れてしまっている人（孤立への順応）」「マンションの高層に閉じこもっている人」「匿名性みたいなところを期待されて住居地として選んでいる人」。一方、飯能市で表明された「障害者のある世帯で高齢の家族が先に亡くなって、SOS できずに 2 人とも亡くなったというのはここでは聞かない」「山間地域では、隣との距離が死角になり発見が遅れやすい」などが山間地の特徴を示している。３．孤立死をなくすにはどういう支援が必要か?　豊島区では、「時間をかけて孤立化傾向の方の心の薄皮を剥いでいく」「情報収集」「関係機関の有機的な連携」。飯能市では、「普段の声かけや見守り」「様子がおかしいと玄関開けて家に入っていく」「孤立している人もいますが、孤立している人を見ている人も多い」などと山間部の特徴が示された。4. ここでは省略する。

②CSW の専任配置地区と兼任または未配置地区の比較（当日資料配布）

5. 考 察

豊島区では、「匿名性」に象徴されるように、つながりや所属が希薄で、単身者やマンションが多い。そのため、慎重で粘り強い働きかけが求められる。飯能市では、何らかの見守りの目が地域にはある。孤立しがちな人々への働きかけも個人情報何のそのと積極的である。ハイリスク層には総じて都市部と山間部に大きな相違はない。地域の様相で異なるのは、豊島区の「ドアを開けなくなったら、それで駄目だなと思います」というように空間は近接していても心理的距離が阻害条件となりやすい。一方、飯能市の「田舎なので遠い所には行きにくい家がある。山間地域では、隣との距離が死角になり発見が遅れやすい」と物理的距離を阻害条件にあげる。CSW の評価はいずれの地域も高い。課題は、関係機関の有機的な連携やネットワーク形成である。また、先の実施した量的調査の結果と照らし合わせた考察は当日発表とする。

６．結論と課題

本研究は、CSW の配置・未配置の 2 地域を選定して FGI を実施した。複合分析した結果は、明らかに都市部と山間部、CSW の配置・未配置には異なった特徴が明らかとなった。しかし、典型例とした地域は 4 地域であり、普遍化して述べるには限界があることから、さらに様々な地域での FGI 比較を実施することが今後の課題と考える